

みんなの「声」

Vol. 10



船越地区在住の五十嵐さん家族

左から
めくみさん
なつみちゃん（6歳・長女）
正（ただし）さん
灯（あかし）くん（2歳・長男）

町民の皆さまからの町への提言、思いなどを紹介します。表紙（1ページ）に登場いただいた家族に話を聞きました。

災害に強いまちづくりを！

—町の良いところは

漁業を中心にスポーツなど生涯学習に力をいれているところです。

—町に望むことは

自然環境を大事に守り、災害に強いまちづくりをしてほしいです。

—子どもたちに望むことは

健康に育ってくれればと思います。

「学校統合と夏の日の思い出」

大川 洋三 さん
(大沢・77歳)

今大沢は大きな転換期を迎えようとしている。東日本大震災以前は全く予想しなかった問題を震災後、関係者は幾度となく協議してきたことだろう。被災者の移住等による人口減少、校舎の老朽化、あらゆる面を考えたのだろう。平成30年11月26日の住民説明会で統合が決定した。学校創立以来144年多くの卒業生を送り出したわが母校大沢小学校も少子高齢化という厳しい現実重い決断だったのだろう。令和2年新学期から新しい学校としてスタートする。当然、通学はスクールバスだろう。歩いて通学する子どもたちの元氣な挨拶は本当に心地よい。私はそんな子どもたちと話をするのが楽しみであった。普段の生活の中で、子どもたちと触れ合い、楽しい時間を過ごした小さなドラマを紹介したい。

私はウニの口開け日を楽しみにしている浜人の一人である。ある日、妻と二人漁協の荷捌き所でウニむきをしていると外が騒々しい。見ると小学校の児童たちが先生に引率され荷捌き所に入ってきた。どうやら写生会らしい。先生の挨拶のあと、各自好きな場所で絵を描き始めた。そのうち何人かがウニむきをしている私のところにやってきた。そっちこっちがにぎやかになった。先生が「ウニですわね」と言うと、子どもたちが「カゼ」、「ボウズカゼもいる」、「ヒトデやカニもいる」と絵を描くのはそっちのけでにぎやかになった。私もつい「これは老人とウニです」と口から出た。すると先生が「お父さんうまい」と言って拍手をした。子どもたちは何のことかわからぬまま、先生の「始めましょう」の声で絵を描き始めた。しばらくして、終了の間際だろうか、子どもたちは先生の前に集まっていた。私の作業も終わり、片付けをしていると先生が来て「児童たちに何か話をしてくれませんか」と言ってきた。私は快く受け、少しばかり「海とウニ」について話をした。子どもたちは真剣に聞いてくれた。そして「終わります」と言うと、子どもたちは大きな声で「ありがとう、ございました」と言って荷捌き所を後にした。その後ろ姿を見ていると、つい「いい童がどうだ」と口から出て、少し目頭が熱くなった。私の生活の一部であるウニの口開け日に子どもたちと触れ合ったわずかな時間が心温まる大きな贈り物してくれた。これから先あのかのようにな触れ合いがあるのだろうかと思うと少し寂しさを感じている。そんなことを考えるのは私だけだろうか。

町民の方から投稿をいただきましたので、紹介させていただきます。

あとかき

▼9月の改選において、町民の皆さま方から負託を受けた議員14名は、初の定例会において、今後の町政運営について活発な議論を待ち望んでいた折、これまで経験したことのない台風19号が本町を襲いました。ここに被災した方々に心よりお見舞い申し上げます。復旧・復興に向けて議会も皆さんに寄り添いながら積極的な復旧・復興方針を提言してまいります。▼さて、新たに任命された我々、議会広報編集特別委員会も皆さんに親しまれるような議会広報作りを目指して町内外を取材等して頑張りますので、投稿や意見、町内外で問題となっていることなどを積極的に提案してください。よろしくお願ひします。(菊地)

発行責任者

議長 昆 暉 雄

議会広報編集特別委員会

委員長 菊 地 光 明
副委員長 阿 横 豊 岡 昆
委員 田 部 吉 清
部 龍 幸 一 衛 信 明

阿 横 豊 岡 昆
部 龍 幸 一 衛 信 明